

Takehisa Mashimo

インタラクティブ・デザインと メディア・アートの世界

特別講演

日時 2015年10月10日 (Sat)
受付 16:30~ (入場無料)
講演 17:00~19:00

場所 稚内北星学園大学
新館3階 1301中教室

対象 全学生及び地域振興や観光産業振興等に
芸術の持つ創造性がどのように役立つか
について、ご興味のある市民のみなさま
主催 稚内北星学園大学 COC 推進委員会地域観光支援室

 稚内北星学園大学
Wakkanai Hokusei Gakuen University

COC地域観光支援室



文部科学省

地(知)の拠点

主催

●「インタラクティブ・デザイン (interactive design) とメディア・アート (media art) の世界」特別講演について、稚内やその近郊にお住まいの方に広く広報いたしたく、お知らせ申し上げます。

稚内北星学園大学では様々な分野の“プロ”を招聘し、講演やワークショップを開催しています。前回、8月にはマジックアーティストをお迎えし「マジックで磨くプレゼン力」にてコミュニケーションのための「仕掛け」を学びました。

今回は、本学の学生が学んでいる5コースの専門分野に共通する情報メディアの“仕掛け”として「インタラクティブ・デザイン (interactive design) とメディア・アート (media art) の世界」を取り上げます。

講師は、オーストリアのリンツで開催の芸術・先端技術・文化の祭典で、メディアアートに関する世界的なイベント「アルス・エレクトロニカ (Ars Electronica)」で受賞歴があり、この分野で国際的に活躍をしている真下武久 (ましも たけひさ) 氏を招聘いたしました。

インタラクティブデザインは広義の意味でインタラクションデザイン (interaction design) に内在し、プログラミングやビジュアルデザイン、メカトロニクス、アフォーダンス (認知科学) など様々な分野の知識を活用して、ソフトウェアのインタフェース、情報システム、ウェブデザイン、スマートフォンなど、システムとユーザーやユーザー同士の対話 (interaction) をもとにユーザビリティに適したデザインを行うことです。

本講演では、真下氏開発の iPad アプリのインタフェースデザインの解説と参加者によるアプリの体験を行います。

また、近年、メディア芸術の分野では芸術祭や地域イベントを通して芸術の持つ創造性を社会に還元する目的で、このインタラクティブデザインを取り入れたメディアアートを地域振興や観光産業振興等に活かしており、文化庁もこれらを行う自治体を文化芸術創造都市と位置づけ、様々な支援を行っています。この分野でも活躍をしている真下氏のインタラクティブメディアアート作品の解説やこれまでの実績を報告していただき、本学の学生が取り組んできた地域イベントでのメディアアートの参考として、今後の取り組みに活かすための学習と位置付けています。

この講演は、地域振興や観光産業振興等に芸術の持つ創造性がどのように役立つかについて、ご興味のある市民の皆様にも是非参加していただきますようお願い申し上げます。

講師紹介

真下武久 氏

メディア・アーティスト

情報科学芸術大学院大学 (IAMAS) メディア表現研究科修了。インタラクティブ・アートの分野を中心に作品の制作・研究を行う。

2004年にPrix Ars Electronica [the next idea] 部門を受賞。アルス・エレクトロニカ・フェスティバル (2004年)、光州ビエンナーレ (2006年)、深川水墨ビエンナーレ (2008年)、サンダンス国際映画祭 (2011年) 他、多くの国際展に参加。コンピュータ技術を用いて様々な作品を制作・発表する。

